

徳島ペンクラブ通信 第193号

2022年（令和4年）9月20日

発行

徳島ペンクラブ

1967年（昭和42年）創刊



葛木大子さん 那賀町



上原恵理子さん 阿南市



受賞された喜びの皆様

とくしま随筆大賞表彰式

於徳島県立文学書道館 9/4

とくしま随筆大賞 「伝統神事で叶った親孝行」 上原恵理子さん

徳島新聞社賞 「手紙」 葛木大子さん

第23回とくしま随筆大賞（徳島ペンクラブ、徳島新聞社主催）の表彰式が9月4日に行われ、

大賞 「伝統神事で叶った親孝行」 上原恵理子さん（39）
徳島新聞社賞 「手紙」 葛木大子（ひろこ）さん（39）
が選ばれ、表彰されました。

そのほかの受賞者は次の皆さんです。
優秀賞

「かけがいのない故郷」 藤居光夫さん（小松島市）
「ウェディングドレス」 長楽健司さん（小松島市）
「おせち、注文しておいて」 小笠明寛さん（阿南市）
「愛国心」 大本 泉さん（阿波市）

奨励賞 「夏の花火と吊り橋効果」 新居由香莉さん（岡山市）

本大賞に今年は58点の応募があり、1次選考で14編を本審査に推薦。依岡隆児（徳島大学総合科学部教授） 柏木康浩（徳島新聞文化部記者） 丁山俊彦（徳島ペンクラブ会長） 竹内菊世（阿波の歴史を小説にする会会長）の4審査員により、各賞が決まりました。

丁山会長は「文学の世界では芥川賞、直木賞に代表されるように、このところ女性の活躍が目立っていますが、とくしま随筆大賞でも上位2作品とも女性で、県内でも女性のパワーが圧倒しているように思います。いろんな人に声掛けをしていただき、今後とも随筆の良さを広めていってほしい」とあいさつ。木下一夫・徳島新聞編集局長とともに各受賞者に賞状などを送りました。

大賞に選ばれた上原さんの作品は、ひどい反抗期が始まった筆者は家族と距離を置き、好き勝手にしてきましたが、30代になって親のありがたさを痛感し、心を入れ替えます。壮絶な出産を経て夢に見た赤ちゃんの土俵入りに参加。数百年の伝統のある海陽町の湊柱神社奉納「赤ちゃんの土俵入り」が叶えられたのだった。まわしを見て両親の幸福感が伝わってきました。

徳島新聞賞の「手紙」は先生と自分、自分と教え子が手紙によって心をつないでいる点に心が温まる気がしました。



お子さんから花束贈呈される上原さん

◆第24回徳島県民文化祭分野別フェスティバル

今年も昨年に引き続き県民文化祭部門別プログラム参加の「徳島の未来の文芸を考える」と題してシンポジウムを開きます。

昨年は短詩型文芸を中心に行いましたが、今回は小説・現代詩・児童文学・歴史文学・口承文学などの分野の方々に集まっていたいただき、主にグループ活動をしていく上での問題点や経験を語り合っ、未来へ繋げていくために役立たせたいと考えています。昨年と同様、西池冬扇副会長を中心にパネリストの皆さんとの白熱した討論をご期待ください

日時 令和4年11月5日(土) 午後1時30分より
場所 徳島駅前シビックセンター4階

「さくらホール」
テーマ 「徳島の未来の文芸を考えるPart2」

※入場無料です。

お友達やお知り合い、お誘い合わせてお気軽にお越しください

◆特集「とくしま各駅停車の旅」パネル展開催

前項で紹介しました「徳島県民文化祭分野別フェスティバル」と日・所を同じくして、「とくしま各駅停車の旅」パネル展を開催いたします。鉄道開業150年を記念して、JR四国の徳島県内74駅と阿佐海岸鉄道の2駅を併せて76駅などについて、それを利用してきた乗客の立場からの思いを、文章と写真で表現します。

この企画は、とくしまペンクラブ選集のPART40号記念特集として編集してまいりました記事のパネルの形で展示するものです。鉄道に愛着を持つ多くの人々の共感を呼ぶものと期待しつつ、現在パネルの制作を鋭意進めております。

同時に石川氏宅で大切に保存されてこられた鉄道に関する珍しい資料を数点お借りして展示します。鉄道の歴史を物語る貴重な歴史的資料をご覧ください。

さらに当日、いま世界を舞台に活躍されている岩崎由佳さんⅡ写真Ⅱ(神奈川県在住、鳴門市出身)のフルート演奏や伝統芸能阿波木偶箱回しの創作演目の実演も計画されており、楽しく印象深い時間を過ごされますよう心配りがなされております。併せてお楽しみください。

スケジュール 令和4年11月5日(土)

10時0分 開場(パネル自由閲覧できます)

10時30分 開会

10時35分 鉄道についての話や資料説明



11時00分 スライドと朗読・フルート演奏・箱回し人形公演
12時25分 閉会
場所 徳島駅前シビックセンター4階 「さくらホール」

◆「徳島ペンクラブ選集part40」作品募集のお願い

選集part40記念号です。多くの応募お待ちしております。

○募集作品

随筆や評論、短編小説などの散文、俳句、短歌、川柳、連句、現代詩などの韻文を募集しています。前回と同様、散文、韻文の両部門に分けて徳島ペンクラブ賞最優秀賞、同優秀賞などを選定予定です。

テーマは自由です。ふるってご投稿ください。

○作品原稿について

- 1, 作品にはタイトルをつけ、署名ください。
 - 2, 見開き2ページ2000文字を基本として偶数ページになるよう工夫してください。写真やイラストを入れて偶数ページにすることも可能です。
- ※ 手書き原稿の場合はお手数ですが原稿とその原稿をコピーしたものを合わせて二部をお送りください。

- 3, 受け付け次第、必ずご連絡を差し上げますので、お電話番号を明記してください。2〜3日でも連絡がない場合は、担当までご一報くださるようお願いいたします。

※ 原稿は必ずお手元にコピーをとっておいてください。

○掲載負担金

基本は見開き2ページ7000円です。追加2ページは、4000円です。後日会計から送付される郵便振替などで納入して下さいようお願いいたします。

○原稿締め切り

9月末日(お守りください)

○送付先(可能であれば、メール添付で原稿をお送りください)

住所 〒771-4232 徳島市丈六町長尾62-15

関 真由子 宛

☎088-645-1840

mail mayu204@na.pikara.ne.jp

追記 メールをご利用の方は原稿を、メール添付でお送りくださると、編集作業がたいへん助かります。よろしくごお願い申し上げます。

◆「アカシア忌」を開催します。

「アカシア忌」(徳島ペンクラブ協賛)は、徳島市出身の詩人 野上 彰を偲び、例年「野上彰の会」(竹内菊世会長)が主体となって行っており、コロナ禍で大変な時期ですが、万全を期して開催いたします。ふるってご参加下さい。

○日程 11月3日(祝日) 午後3時 新町橋西公園に集合し、清掃活動他
午後4時より懇親会

◆会員短信

竹内絃子さん

8月20日、徳島文学書道館で「原田一美 人と作品―平和の種を未来に」と題して講演をされました。作品を通して見えてくる平和の大切さについて、64人の聴衆が熱心に耳を傾けました。

山崎純世さん

NHK徳島放送局が小学生から募集した作品発表会に、絵本作家として、参加されました。9月9日「あわとく」の『集まれ！未来の絵本作家たち』で絵本が完成していく様子が放送されました。

◆徳島ペンクラブでは、会員を募集しています。

徳島ペンクラブは、文芸を志す方々に広く開かれておりますことは、皆様ご存じのとおりです。身近な方やお知り合いの方で文芸に励まれ、徳島ペンクラブに関心のある方や興味のある方をぜひご紹介ください。

連絡先 徳島ペンクラブ事務局

☎ 090-2787-7614 鈴木宛

◆今回第193号から「ひとりごと」欄を設けました。

皆さま、よろしくご利用ください。

新しい様式で「徳島ペンクラブ通信」を発行する端緒が開いたのを機会に、本通信に会員の皆様全員参加の場を作りたいと思います。「徳島ペンクラブ選集」と「本通信」にも会員短信欄がありますが、それとは趣の異なる近況報告、ちよつとした考えや言葉にしたいこと、今思うことや感じること、あるいは希望や意見を、それぞれご自分の得意な様式や文体で、「気軽に」投稿願います。その要目は次の通りといたしますが、実行の途中で不都合な点は随時改善してゆきます。

1、原則として会員を対象とします。「ひとりごと」と明記して、いつでも投稿して

- ください。直近号に掲載します。(多い場合、次号になることもあります)
- また「徳島ペンクラブ通信」発行の約1か月以上に、普段投稿の少ない会員の方々から数名を選んで、事務局から、投稿依頼の往復はがきを発行します。募集数は、その時の掲載記事状況により、多少変わりますが2〜6人様とします。
- 依頼を受けて応募して下さる会員は、その返信ハガキの投稿欄に2000〜3000字以内で所感を記載して頂きます。もしメールや手紙で投稿する場合も、文字数を2000〜3000字以内にまとめてください。
- 投稿が締め切りに遅れた場合、その旨連絡の上、次号に掲載することとします。掲載した原稿は返還せず、事務局で当該発行時まで保管した後、責任をもって廃棄します。
- 様式は、散文・韻文あるいはそれらの混合など自由です
- ペンクラブにおいてはありえないことと思いますが、不適切な表現または誹謗中傷記事は事務局で修正するか、または掲載を留保致します。

ペンクラブ通信…書き方のサンプル

薄ら寒い

「うす(薄)というのと、本来「ちよつ」とか「少し」というのと同じであろうが、使い方次第でより一層の強さを表現する。薄汚いといえは、汚いとだけいうよりもつと汚く実感がこもる。薄寒さは一段と寒く、薄気味悪さは怪しく不気味である。薄ら笑いは陰険だ。薄を言葉の頭につけると、本来少しの程度を意味するはずが、不思議なことに非常とか大変あるいはより一層の感じに化ける。言葉とは不思議なものだと思っていたが、それは言葉の不思議ではなく、人の感覚や感性の相互干渉に起因するのではなからうか。お汁粉にちよつと塩を利かし、スイカに塩をちよつと振ると、ますます甘く感じるようなものかもしれない。異なる刺激が相乗するのだ。

一歩庵主人

(以上本文300字)

リレーエッセイ



松田一美 氏

断捨離

『旧約聖書』の「コヘレトの言葉」の中に「天の下ではすべてに時機があり、すべての出来事に時がある。生まれる時があり、死ぬに時がある。神はすべてを時に敵つて麗しく造り、永遠を人の心に与えた。だが、神の行った業を人は初めから終りまで見極めることはできない」という詞がある。

「死ぬに時がある」は理解できるが、その時がいつ訪れるのか。明日か、それとも来年か、人は誰も知ることはできない。では、六十七という年齢が近づいた今、何をすべきか。先ずは断捨離ではなからうかと思つた。モノを大事に抱え込んでいても、あの世へは持つて行けないし、第一、家族は迷惑であろうから、できる限り手放すことにした。

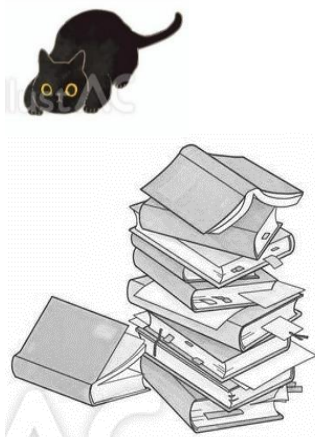
美馬市木屋平の実家の倉庫に眠っていた単行本や文庫本(ダンボール箱で三十個ほど)は地元の学校に引き取ってもらつた。読

んで貰えるならこんなに嬉しいことはない。又、池田高等学校野球部が躍動していた頃(一九八二年)に収集していた資料は同校の「櫻

陵資料室」で展示して頂いている。スクラップブック二十冊(徳島・朝日・毎日・デイリースポーツなどの新聞記事)や、葛文也監督に関する書籍類、選手の活躍記事を満載した各種雑誌等々、どれも貴重な資料だと思う。そして、若いころに採集した蝶の標本(桐の標本箱十二箱に七十八種六百頭)は図鑑数冊とともに、徳島

文理大学附属幼稚園に寄贈した。これらの蝶は木屋平に棲息していた個体なので、県内にはもつとたくさん種がある。レコードのシングル盤数百枚、クラシックや洋楽、和楽のLP盤二百枚は引き取り先が見つからず、市内の店に持ち込んだ。

家族に遺しても無用の長物となつては元も子もないし、どこかで役に立っているのであればそれに越したことはない。ただし、師・塚本邦雄の著書四百冊と関連の品々は死ぬまで手放すことはできないだろう。この先どんなことがあつても手許に置いておきたい。



ほんの散歩道

新たに出版された方は、ご連絡ください。

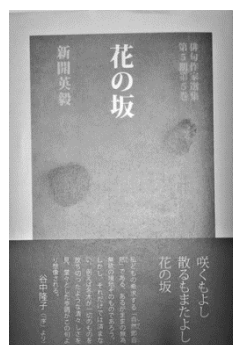
『令和・長慶公記 最初の戦国天下人』『句集 花の坂』

『三好長慶伝』

入会から17年、初めて著わした二冊は三好長慶の生誕500年を記念した「短い言葉が詩に昇華」した句集として結大著、「青春 青龍」「蒼龍 伏龍」「朱実。本編は2010年から2年」こと「余夏 朱雀」「白秋 白虎」と題した各章「花の雨」など六つの章題をつけ、春夏秋冬は長慶のそれぞれの軌跡を表しているに並べられている。装丁もシンプルで美しい。次章に加えるのは大河ドラマのい。

● 四六判 216頁 2860円 ● 発行解き、再評価の進む長慶に出あえる一 所 文学の森 ● 著者 新開英毅 冊である。

● B5判 264頁 1500円 ● 発行者 三好長慶会 編集委員 会代表 出水康生編・著



あ が き

前号は、初めてのこともあって、特別な専用ソフトを使って編集しましたが、そのソフトは保有者以外使用できないため、そのソフトを参考にして、今回は誰でも利用できる「Word」を使って試行しました。ただ困ったことは、どのパソコンにもインストールされている「Word」というソフトは、汎用性のせいかもしれません、複雑な一定の形を作ろうとすると、まるでじゃじゃ馬のように飛び跳ねるのが難点で、それを抑えるのに苦労しましたが、どうにか調教できました。もつともこちらが調教されたというべきかもしれませんが...

ともかく我がペンクラブ独自のやり方がまた一つ生まれたことになりました。今後は、多くの人々がこれに携わり、改良し情報を交換しあい、もつともつと立派な手法に高めていって欲しいものです。 編集並びに発行担当者一同 敬白